

自動運転バスの縁石との接触事故の調査結果について

8 月 18 日（火）、小松駅・小松空港間を自動運転レベル 2 で営業運行中の自動運転バスが、駅西口バスロータリー入口付近において、車両左側面下部が縁石に接触した事故について、次のとおり報告いたします。

1. 発生日時 令和 8 年 8 月 18 日（火）10 時 18 分（10 時 05 分 空港発便）

2. 発生場所 小松駅西口広場（小松駅西口バスロータリー入口付近）



3. 発生状況

- 小松空港－小松駅間を営業運行している車両が、小松駅前交差点からバスロータリーに進入した後、車両左側面下部が道路脇の縁石に接触しました。
- 自動運転レベル 2（運転操作の主体は運転者で、アクセル・ブレーキ・ハンドル操作が部分的に自動化）での営業運行中でした。
- 縁石への接触後、車両を停止させ、乗客の負傷等の有無の確認及び危険防止のための対応を行いました。
- 警察へ通報し、現場検証等を受けました。
- 事故発生後の運行は代替え車両により行いました。

4. 被害状況

- 乗客は 11 人乗車していたがけが人はなく、運転士にもけがはありませんでした。
- 周辺の歩行者、他車両への被害はありませんでした。
- 接触した道路脇縁石及び車両に擦り傷が生じました。



5. 事故原因の調査と結果

小松市及び関係事業者において、車両に記録された走行データの解析、車両状態、道路環境、運転操作の状況の確認、運転士からの聞き取り等を行いました。

調査の結果、安全性を重視する自動運転システムの、認知・判断による車両の動き（左操舵）に対し、運転士は危険な動作と判断し手動介入を行いました。とっさの操作であったため適切な操作に至らず、結果として縁石に接触したということが分かりました。

【概要】

- 小松駅前交差点を左折進入後、前方駐車場内の人物の動きに対し自動運転システムは、自車走行経路上への飛び出しにつながる動作として検知しました。駐車場内の人物の動きは、人間のドライバーであれば飛び出すと考える程度の挙動であり、運転士も当該人物の動きを認識していませんでした。なお、安全を優先する自動運転システムとして、正常な動作となります。
- 飛び出し検知により、自動運転システムは「減速・停止」と自車位置修正のための「左操舵」を実行しましたが、運転士にとっては理由が不明なまま急にハンドルが左に操舵されたこととなり、運転士は危険な動作と判断し、手動介入操作を行いました。不安を感じた場合は手動介入が原則であり、運転士の手動介入の判断は適切なものでした。
- 運転士は、ハンドル操作を行いました。手動介入モードへの切り替えに必要な力を加えるには至りませんでした。また、同時にペダル操作も行いましたが、アクセル操作の後にブレーキ操作を行ったため、ブレーキに遅れが生じました。なお、上記アクセル操作により車両は手動介入モードに切り替わりました。



- 運転士がブレーキ操作を行った直後、車両は縁石に接触し、その後停車しました。
- 手動介入が無ければ、自動運転システムにより安全に停止していたと推察され、また、手動介入時に適切にブレーキ操作が行われていれば安全に停止していたと推察されます。

6. 今後の対応

事故原因を踏まえ、再発防止のための有効な対策について協議を進めています。

調査の結果、自動運転システムには問題が無かったことが確認されており、車両の点検を行った上で、まずは手動運転による営業運行再開に向けて準備を行っていきます。

7. 本件に関するお問い合わせ先

小松市総合政策部地域交通政策室 TEL 0761-24-8396